

都内大手コンビニと県内生産者の マッチングで事業拡大と地域振興

課題

生産者不足で 青果などの仕入れが不足

上野原市を拠点に都内23区の手続きコンビニエンスストアの店内外で青果や果物、特産品を販売している株式会社ブイメイン。「コンビニ×直売所」をコンセプトに、安心・安全、こだわりの食品を求める消費者や、遠くに行かない高齢者、仕事と家庭の両立に忙しい主婦層、帰りが遅い終電帰宅層などが主なターゲットだ。2016年に創業した会社だが、事業は「新鮮な野菜を24時間気軽に購入できる」と消費者からも好評で、コンビニの集客増や併売効果にも貢献している。また一方で、山梨県内の生産者に都内への販路を提供することで生産者の売りに寄与するとともに、上野原市にある集荷場は地域住民にとっての雇用の場にもなっている。

しかし、それゆえの課題もあった。300店以上から出店の依頼があるにもかかわらず、契約生産者不足で商品供給が追いつかず、出店できないという機会ロスを招いていたのだ。とはいえ、これ以上自社での生産者の開拓は難しいのが現状。また、「地元密着」「零細農家が主な仕入れ先」「自社による配送」といった利益率の低いビジネスモデルも見直しを迫られていた。

支援

パートナーや取引先を増やし ビジネスモデルを変更

2018年から支援にあたった上野原市商工会では、生産者不足への対応として、可能性のある農家や加工食品メーカーにヒアリングを行い、その結果を踏まえて、関心のある事業者を同社に紹介。これらのなかから、山梨県中小企業団体中央会や南アルプス市の加工食品メーカー、北杜市の農家については別途、商工会の立ち合いのもと面談を実施した。このほか、事業パートナーや取引先を拡大するため、山梨中央銀行アグリビジネススクールやマッチングフェアへの参加を提案。銀行本店担当者との引き合わせも行った。このマッチングの成果として、「甲州信玄の会」（県内食品メーカー13社でつくる団体）の商品を、同社を通じて都内のコンビニ3店舗で販売することにつながった。

また、生産者や関係者のヒアリングの結果をもとに、専門家とともに事業計画の提案も実施。さらに、地域資源活用プ



コンビニ店内に並ぶ山梨県産の商品

ログラム（需要開拓型）や山梨中央銀行地方創生基金などの支援施策の活用を提案。申請にあたっては、専門家から審査ポイントなどのアドバイスも受けながら、進めていった。

こうして同社のビジネスモデルは、「地元密着」から「県内全域」へ、「零細農家からの仕入れ」は「各地の協力会社経由で商品を集荷」へ、そして「自社配送」は「配送は別会社に委託」へと、見直しが行われ、現在50店舗まで拡大。

同社のもつ都内大手コンビニという販路は、県内の農家やメーカーとの連携で大きな地域振興にもつながる事業であり、商工会では継続して伴走支援を続けていく。

支援の経過

期間	支援内容
2018年4月	商工会加入、支援提案
5月	ビジネスモデルの助言、施策活用支援
6月	生産者へのヒアリング結果報告など
7月	生産者との面談など

会社概要

会社名：株式会社ブイメイン
住所：山梨県上野原市大野1331-2
電話番号：0554-63-1955
URL：<http://www.vmain.co.jp/>
代表者名：竹岡孝一
創業年：2016年
従業員数：10名
商工会名・担当者名：上野原市商工会・梶原崇照